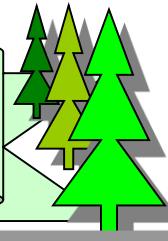




街路樹



「英語・外国語科の授業改善の視点と実践例紹介」



「ちび」を「からすたろう」に 相談室

6月3日(金)「小学校外国語教育研修」で、明海大学 百瀬美帆先生の講義より、外国語の授業における Classroom Englishの効果的な使い方や、大切にしたい点についての助言がありました。ぜひ、教室で使う英語表現にプラスしてみましょう!

1 児童への指示の場面

Sit down. → Please sit down. / Sit down, please.

- * 児童は指示表現を何度も聞き、Pleaseをつける習慣を身に付けます。

2 コミュニケーションに支障をきたすエラーを訂正する場面

S: (もう一度言ってほしい時に) One more!

T: Once more? / One more time. OK!



(教師が必要な一言を付け加えて再度繰り返す)

- * 教師のリキャストから児童は、正しい表現を身に付けます。

リキャストとは

会話の際、児童生徒の英語に誤りがある場合、会話の流れを途切れさせずに、与えるフィードバック、教師の言い直しのこと

リキャストは中学校の英語学習でも、エラーの修正に有効な手段です!

3 ほめことば・励ましの場面

Great communication! That is a nice try!

- * 活動の中で児童同士でも使う機会を作りましょう。

小学校・中学校ともに、Classroom Englishを効果的に活用し、英語でのコミュニケーションを豊かにしていきましょう。

八島太郎さんの絵本『からすたろう』(借成社)をご存じでしょうか。はじめと終わりの部分を簡単に紹介します。

<はじめ>

1人の男の子が主人公です。その子は、教室にも入らず、えんの下にいたり、先生をこわがって何も覚えることができなかつたり…。小さいので「ちび」と呼ばれ、友達誰もいませんでした。誰からも相手にされないちびは、見たくないものを見なくてすむようにやぶにらみを覚えました。それでも、ちびは毎日登校しました。

<終わり>

ちびが6年生になったとき、磯辺先生という若い教師が担任になりました。磯辺先生は、ちびにも分け隔てなく関わってくれました。そして、あるできごとをきっかけに、ちびはもうちびとは呼ばれず「からすたろう」と呼ばれるようになりました。からすたろうは、その呼び名を気に入り、肩を自慢げにはって街を歩けるように変わりました。



ひとりぼっちでのけ者にされて、やぶにらみの目つきをしていた「ちび」が「からすたろう」と呼ばれるように変わり、自分に自信をもって歩けるようにまでなったきっかけとなった「できごと」は何だと思えますか。

教育とは何かを問う絵本です。そして、教師として子ども一人一人に目を向け、その子のよさに気付くことの大切さを改めて教えてくれる絵本です。

小学校なら、この絵本を図書室で見つけることができると思います。ぜひ、読んでみてください。多くの子どもたちが「からすたろう」のように、自分のよさを知り自信をもって生きていくことができるようになることを願いつつ。

「生徒指導主事研修」(県共催:「不登校・いじめ等対策推進事業 域別シンポジウム」)より

5月25日(水)に生徒指導主事研修が2年ぶりに開催されました。各校の生徒指導主事を対象とした本研修は、不登校やいじめ等に対する効果的な支援体制の充実を図ることを目的に、「不登校・いじめ等対策推進事業 域別シンポジウム」として福島県教育委員会と共催して実施しています。今回の研修の大きな2つの内容について紹介します。

① **不登校対応の実践** 市内には、県の配置による「SSR※」(県内20校)や、校内体制を工夫して学校独自の適応指導教室を設置している学校があります。これらの教室は不登校傾向の児童生徒の居場所をつくり、実態に応じたきめ細かな対応により将来の社会的自立を目指すことを目的としています。実践校の発表から見えてくる不登校対応のポイントは、「児童生徒の実態把握」と「支援の方向性の設定」「学校と家庭の連携した取組」等が挙げられます。今回実践発表をいただいた講師から、校内研修活用のために講義資料データをいただきました。児童生徒の抱える不登校の要因を見直し、児童生徒に合った支援策の在り方を検討する際の参考には是非ご活用ください。(Kドライブよりダウンロードできます)

※県 SSR= Special Support Room

② **いのちを育む教育** 東京医療保健大学医療保健学部教授の渡會睦子先生にご講義いただきました。「思春期」は、児童生徒が大人に向かって自立する準備の時期であり、心のバランスが崩れやすくなります。不安や悩みを抱えやすいこの時期の児童生徒にどのように関わればよいのか、小中学校の生徒指導における難しさがそこにあります。SNSなどによるいじめ、暴力行為、リストカットなどの自傷行為、性に関する問題等、児童生徒が抱える課題はコロナ禍でさらに複雑化しています。この時期における児童生徒の指導には、「自己肯定感」の育成がポイントです。自己肯定感とは、ありのままの自分を受け止め、自己の否定的な側面も含めて、自分自身を肯定的に受け入れることができる感情のことです。指導する際には、思春期の特性を理解し、自己肯定感を高めるような関わりを大切にしましょう。